

明日の保育から実践できる チャイルドコーチング

～子どもたちの自己肯定感を高めよう～

自己紹介



近末 克紀 (ちかすえ かつのり)

みんなで子育て株式会社代表取締役 足利短期大学非常勤講師 越谷保育専門学校非常勤講師

44歳 一児の父 妻も保育士

保育士 幼稚園教諭 乳幼児救命救急支援員 和太鼓・民舞講師

チャイルドコーチングアドバイザー

群馬県大泉町で生まれ育つ

大泉町の公立保育園に保育士として21年在職。

現在は、21年間務めた公立保育園を退職し、包括的地域福祉の拠点としての、小規模保育園の開設を目指す。

保育園の敷地内に、地域のお年寄りや子育て世代、誰もがいつでも好きな時に遊びに来られる寄り合い所を併設し、顔の見える地域づくりと、みんなで子育て環境をつくっていくことを夢見て活動中。

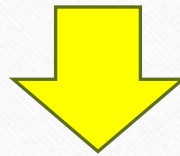
論文「幼児教育における環境を通して行う教育としての仕掛け」執筆

共著：佐々木由美子（足利短期大学教授）

「ほいくジャーナル」ディレクター コラム連載中

「子どもたちの気持ちに寄り添った保育」 「子どもたちの主体性を育みます」

主体性って
何だろう??



子どもたちに寄り添えて
いたかな?
どこまで寄り添えば??

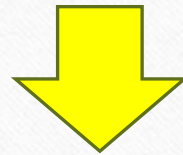
自分たちの保育の振り返りが大切！！
振り返りが、保育の質を向上させます！！
(保育指針・園の理念などを根拠に)

< 保育所保育指針に基づく保育の基本的な考え方(例) >

- 子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めること
- 子どもの生活のリズムを大切にし、健康・安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えること
- 子どもが自発的・意欲的に関わるような環境を構成し、子どもの主体的な活動等を大切にすること
- 乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育すること

自分らしさ・主体性・生きる力

- 子どもを権利の主体として位置づけ、その最善の利益を考慮するとともに、乳幼児期が生涯にわたる人格形成にとって極めて重要な時期であることを踏まえ、一人一人の主体性を尊重することが求められます。



こうした日々の安定した生活の中で、子どもたちに寄り添い、
安心感と信頼関係を築きながら

非認知能力・生きる力を伸ばしていく！！

幼児期のおわりまでに育てて欲しい10の姿

の危険性

①健康な心と体

②自立心

③協同性

④道徳性・規範意識の芽生え

⑤社会生活との関わり

⑥思考力の芽生え

⑦自然との関わり・生命尊重

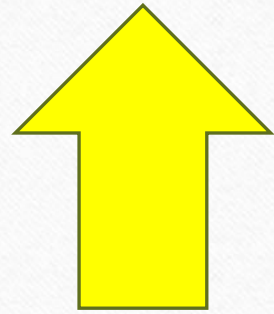
⑧数量・図形、文字等への関心・感覚

⑨言葉による伝え合い

⑩豊かな感性と表現

これを子どもたちの成長の指標にしてはいけません！！
こうやってトピックしなくても、様々な経験の中で自ら獲得していく力ですから。

生きる力（自分軸・主体性）



コーチング

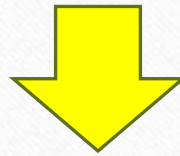
基礎となるもの

自己肯定感

自己肯定感が高い

常にポジティブで自信に満ちた状態でいなくてはいけない、ということではありません。

「自分には強みもある。でも弱みもある。それらを含めたすべてが自分である。そんな自分でも、自分の課題を解決することができる。」



自分の可能性を信頼できる状態

コーチングとティーチングの違い

ティーチング

教える側が持っている知識や技術を相手に伝え、習得させる。

問題は早く解決されるが、相手は答えを与えられるのを待つようになる。

コーチング

子どもの潜在能力や意欲を引き出す「教えない」アプローチ法。

コーチングの原則は、「答えはいつも相手のなかにある。」

ティーチング → 教育

コーチング → 共育

コーチングの基本スキル

- 傾聴

「真剣に聞く」ということは強いメッセージ
「何を言っても大丈夫」と思える環境設定

- 承認

存在承認 > 行為承認 > 結果承認
「具体的に」「タイミングよく」「心を込めて」

- 質問

「答えやすい質問」からはじめ、気づきを引き出す投げかけを
「否定質問＋過去質問」でなく「肯定質問＋未来質問」でやる気を引き出す

傾聴のポイント

- 受容

子どもの考え・気持ち(内なる声)・ことばを「受け止める」

否定せず、口をはさまず！！

- バックトラッキング(オウム返し)

繰り返すことで、子ども自身の考えが明確化していく

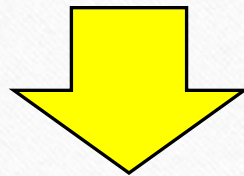
プラス1(情緒的なことばがけ)を意識しよう！！

→低年齢の子どもたちにも大切

バックトラッキング

- オウム返し

相手の話す内容に対し、こちらが事実や感情を繰り返すことで内容が要約され、否定、拒否といった違和感や抵抗感を打ち消し「大切にされている」といった肯定的な感覚を与えることができます。



相手の気づきを引き出し、悩み事や問題の整理を促し、あなたを貴重な存在に感じてくれる。

あなたなら何て**応え**ますか？

-
- お散歩中に、子どもが空を飛んでいる飛行機に気づき、「あっ！ひこーき！！」と言いました。

 - 自由遊びの中で、子どもがつくった大きささまざまな泥だんごを5つお皿に乗せて、あなたに「どうぞ」と差し出しました。

承認のポイント

- Iメッセージ

こちらの意図や感情を伝えると、子どもたちの行動に変化が生じる

YOUメッセージ(評価)

「よくがんばったね」
「絵が上手だね」
「いつもよく練習してるね」
「自分から進んでできて偉いね」
「本当に努力家だね」



Work Iメッセージ(感謝や承認)に変えてみよう

→叱るときもIメッセージを意識しよう！！

Iメッセージの重要性

「YOUメッセージ」と「Iメッセージ」

例えば、何かに一生懸命とりこんでいる子どもの姿を見た時、皆さんなら何と声を掛けますか？
あるいは、マラソンの応援をされていて、自分の前を走り抜けていく選手に何と声をかけますか？
多くの方が、「頑張ってるね」や「頑張れ～！！」「よく頑張ったね」と声をかけると思います。

これは、主語が「あなたは～」となるYOUメッセージです。

決して悪いわけではなく、褒めていることに間違いはありませんが、「評価」のニュアンスが強くなります。

一方でIメッセージは、主語が「私は～」となる伝え方で、頑張っている姿を見て、「自分はどう感じたか」を伝えることとなります。

相手に対する評価ではなく、相手の行動や存在に対する感謝や、承認の気持ちを伝えることができます。
ワークで実感してみましょー！！

Iメッセージエクササイズ(大人編)

YOU「〇〇さんは忘年会に行く？」

YOU「遊んだものくらい自分で片付けてよ！」

YOU「脱いだ服は洗濯機に入れてよ」

YOU「ご飯まだ？」

YOU「ごちそうさま」

YOU「ママの話、聞いている？」

YOU「残さず食べなさい！」

YOU「美味しいです」

YOU「こんにちは」

質問のポイント

- 問いかけることで相手の内側にある答えを引き出そう！！
子ども自身で考える習慣づくりで、自分で考えて行動しようという自発性が育つ
- ルールや決まりは誰が決めた？ 具体的に説明してる？
何がしたいか？ どうしていききたいか？ 実現するには？ なぜダメなのか？
子どもたちに質問を投げかけながら、子どもと一緒に決め、丁寧に具体的に説明する
→子どもが目標に向かう行動のきっかけづくりには、
コーチの質問能力が重要！！

リフレーミング

大人の価値観・枠を捨てれば、子どもは変わる！！

「やれば必ずできる」と信じる

大人都合の謎ルール
大人都合の保育の作業化

子どもたちとルールをつくる
人が人を育てる保育

過去
「〇〇だから・・・」の先入観

未来
「可能性がある子」という信頼

不安・失敗
大変・面倒

子どもは変わらない

子どもが自主的に動く

→子どもを信じ、個性を大切に！自分の価値観(枠)を取り払おう！！

リフレーミングとは？

- 心理的な出来事のフレーム(枠組み)を別の視点から見てみることをさします。

例えば、コップに水が半分入っているとき、「もう半分しかない」と見るか、「まだ半分ある」と見るかでは、感じ方が変わってきますよね？

これは、人に対しても同じことが言えます。

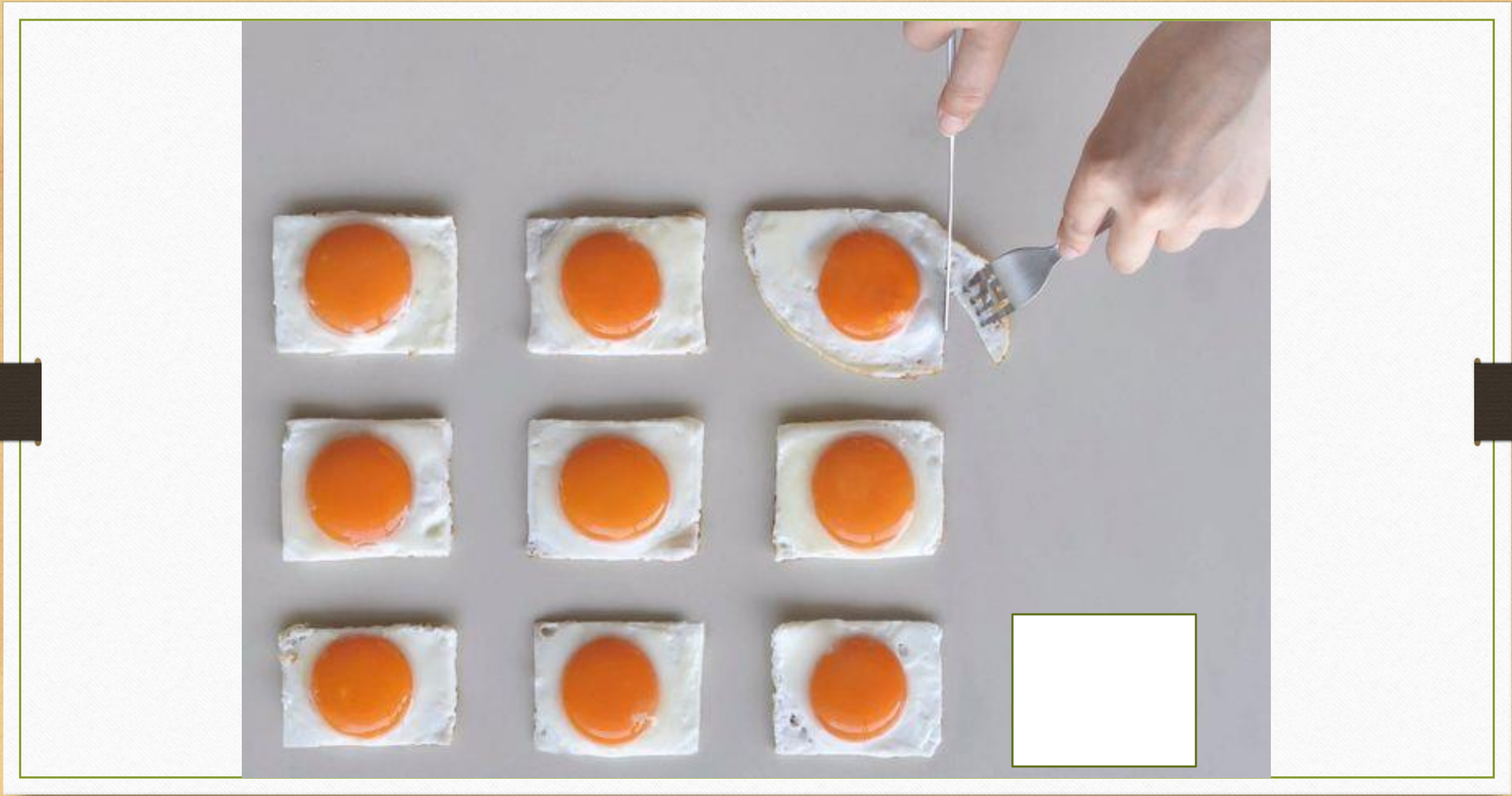
同じ姿でも、マイナスの視点で見るか、プラスの視点で見るかによって、表現も印象も違ってくるのです。

リフレーミングワークシート(大人)

言い換える言葉	リフレーミング	言い換える言葉	リフレーミング
いいかげん	こだわらない おおらか	細かい	よく気が付く
おしゃべり	社交的	自己中心的	人に流されない
おおざっぱ	楽天的で融通が利く	図々しい	堂々としている
気が小さい 消極的	繊細・控えめ	でしゃばり	世話好き
気が短い	反応がはやい	八方美人	人づきあいが上手
気持ちが顔に出やすい	正直	目立ちたがり	自己表現が活発
気が強い	弱音を吐かない	わがまま	自己主張できる

リフレーミングワークシート(子ども)

言い換える言葉	リフレーミング	言い換える言葉	リフレーミング
落ち着きがない	活発・元気がいい	おとなしい	おだやか・考え深い
飽きっぽい	素直・好奇心旺盛	しつこい	粘り強い・芯が強い
わがまま	自分に正直・発想が豊か	命令しがち	リーダーシップ 自信がある自分の考え
のんき	おおらか・冷静	ふざける	陽気・明るい
頑固	意志が強い・信念がある	負けず嫌い	一生懸命・理想がある 向上心がある



同じ服を着せ、同じ考え方、同じ答えを求める。

「普通」になるために切り捨てられていく個性。

まず第一に「静かにする」ことを教える日本の教育。

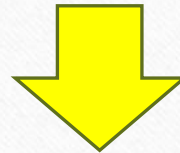
子どもの将来のためという大人のエゴ。

本当に子どもたちに必要なのは、自らの意思で選択できる力と、それができる環境ではないだろうか。

支配的で管理的な保育から、受容と信頼の保育へ

- 子どもの力を信頼できないと、前提が「子どもとはわからないものだ」「できない存在なのだ」という認識になってしまいます。すると、大人の指示に従う存在に仕向けて、「一つひとつ”**正しい行動**”を取らせていかなければならない」と考え、そのために「支配」や「管理(コントロール)」することを怠るようになってしまいます。

大人の価値観
枠・型



こうした考え方は捨てましょう！！

子どもの考え・意見を受容し、子どもの力を信頼することで、「らしさ」を伸ばしていく。

私たちは、指導者ではありません。伴走者です。

あなたならどうしますか？

- 『年長クラス。子供たちのモノの取り合いのトラブルが多くて困っている。』
- 『それらのトラブルに対して、こまめに保育士が介入して謝らせたり、どちらが使っていたモノだと判定したり、他のモノで遊ぶように促したりと一生懸命頑張っている』

と相談を受けました。

「もし、自分と子供との間に信頼関係がきちんとできていると思うのであれば、“否定の視線”ではなくおおらかな気持ちでできるだけ見守るだけにして、手が出てしまうなどの危険なこと以外は子どもに任せてやらせてみたら」

どうなったか？

活発で遊びが上手な気の強いA君と、月齢が低く全般的に幼く、遊びを壊してしまうことがありいつもA君とトラブルになることの多かったB君。

やはり、遊びを巡ってトラブルになったが、保育士は手を出すのを我慢して見守るようにした。当初はいつものようにトラブルになり、B君が泣くことで終わっていたが、次第に変化が出てくる。

何度か同様のことがあった後、そのB君が泣いているのを慰める女の子が出てきた。

またしばらくして「B君も入れてあげればいいじゃない」とA君に意見する別の子が出てくる。

さらにその後、A君と一緒に遊んでいることの多いC君が、B君に「こうやって遊べばいいんだよ」とサポートする姿が見られてきた。

それから、A君がB君にいろいろと教える姿が出てきて、一緒に遊べるようになってきた。



見守った結果、保育士が感じたこと

保育士は、それまで良かれと思って子供に介入してきたことによって、
実はそれが子供たちの力を発揮させる場を奪ってしまっていたことを実感した。

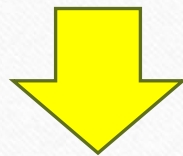
「できる」を目指さない！「できる」はついてくるもの！！

- 共に楽しむ、共感する、ワクワクする

子どもたちと楽しむことが、共感を生みます。

どんな教材でも、楽しんで取り組んだ先に子どもたちの成長があります。

「楽しもう！！」が「やらせなきゃ」になると・・・



途端につまらなくなる・見栄えや形だけになってしまう

まとめ

- 子どもの話を聞き「受け止めよう」！！ バックトラッキング 「傾聴」
- 小さな成長を見逃さず「思いを言葉にしよう」！！ Iメッセージ 「承認」
- 気づきを促すメッセージを発信して、引き出そう！！ みんなで考える 「質問」
- 自分も相手にも発想の転換を促し、レッテル保育を捨てよう！ 「リフレーミング」
- 私たちは指導者ではなく、伴走者です。
- 「できる」を目指さない！！

自己肯定感 → 生きる力

「幸せな子」を育てるのではなく、

どんな境遇におかれても

「幸せになれる子」を育てたい。

みんなで子育て株式会社

各種研修会・講演会など、お気軽にお問い合わせください



ホームページ

子どもも大人も
みんなが育ち合える
子育て環境つくろうぜ

保育ジャーナル
年4回無料で発行
ご希望の園は
ご連絡を！！



インスタグラム